

国民の森林によるCO2吸収量に関する意識調査結果

[実施日] 平成21年9月1日(火)～平成21年9月25日(金)

[回収件数] 500件(配信数2,930件、回数率17%)

[回収件数] Webアンケート調査(調査協力会社:CPR)

調査結果の概要

- 国民の **82%** は、地球温暖化に対して関心あり。関心が「非常にある」人は、全体の **27%**。
- 森林の二酸化炭素吸収機能に対する経済的評価は、現時点で年間約 **400億円**。
- 国民の温暖化に対する関心度が、現時点より今後高まることによって、経済的評価は、年間 **430億円～500億円** に増大。

- ・ 国民の約8割は地球温暖化に関心を示す。うち高い関心者は、全体の約3割弱(図-1参照)。
- ・ 国民の森林の二酸化炭素吸収機能に対する最大支払い意思額は、価値別にみると遺贈価値に基づく支払い意思額が都市圏及び地方圏のいずれにおいても最も高く、地方圏では約5割を占めている。当該支払い意思額は、都市圏で年間1,300円、地方圏で1,100円(図-2参照)。
- ・ 評価手法は、CVM(Contingent Valuation Method)※を採用。
 ※ CVMとは、アンケートを用いて人々に環境を守るためにいくら支払うかを尋ね、その回答をもとに環境の持っている価値を金額で評価する手法。

図-1 国民の地球温暖化に対する関心の程度

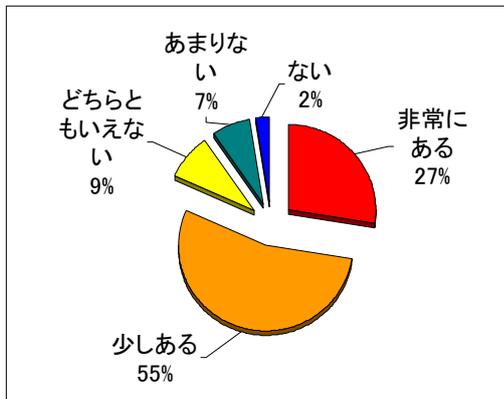


図-2 価値別にみた支払い意思の割合

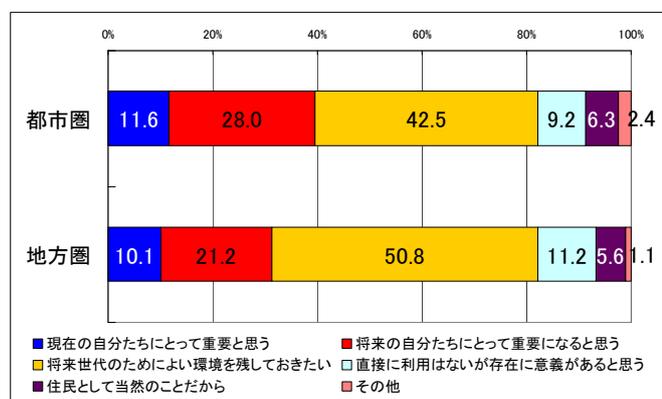
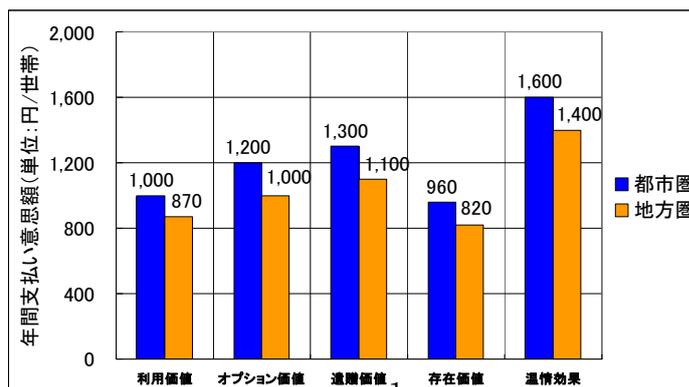


図-3 国民の価値別にみた支払い意思額



森林のCO₂吸収機能に対する経済価値は、日本全国において、現時点における地球温暖化に対する関心度を所与とすると、年間で約400億円と推計される。

- ・ 地球温暖化に対する国民の関心度が高まり、非常に関心が高い人の割合が全体の50%、70%と拡大することにより、経済価値は約430億円、約500億円と増大するものと推計される。これは、地球温暖化に非常に関心のある人の支払い意思額は、そうでない人の当該額に比べて14.7%程度高いことによる。
- ・ 国民の地球温暖化に対する意識の醸成が、森林の経済的評価を高める上でも重要となることがわかる。

図-4 森林のCO₂吸収機能に対する経済的価値

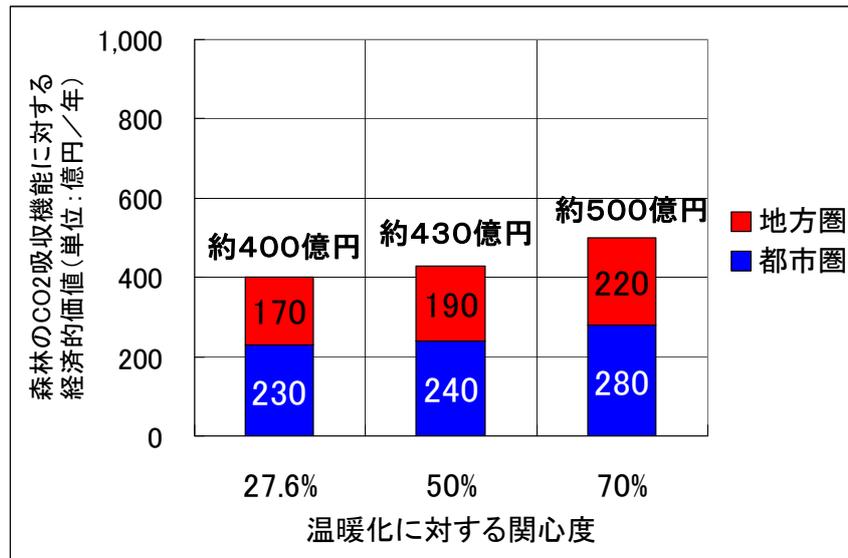


表-1 森林のCO₂吸収機能に対する価値別便益

関心度 \ 価値項目	27.6%		50.0%		70.0%	
	都市圏	地方圏	都市圏	地方圏	都市圏	地方圏
利用価値	24	16	27	17	31	20
オプション価値	70	38	76	41	88	45
遺贈価値	120	99	120	110	140	130
存在価値	18	16	21	18	23	20
合計 (単位:億円)	232	169	244	186	282	215
	401 ≒ 400		430		497 ≒ 500	

以上

【お問い合わせ先】財団法人日本不動産研究所
 CO₂研究会 担当 コンサルタント部 小松広明
 TEL 03-3503-5343
 E-MAIL hiroaki-komatsu@jrei.jp